

おわりに

今年も残すところ1カ月あまり、今年をふりかえってみたとき、まちがいなく今年の流行語大賞に選ばれることばは「ミレニウム」ではないでしょうか。

でも、アレっ?! 去年は確か「Y2K」「Y2K」と騒いでいましたよね。その前の年は・・・と考えてみると、「21世紀に向けて」ということばが、氾濫していたように思います。

何が言いたいのか、もうお分かりのことと思いますが、人は、そのときそのときの流行にどうしても流されてしまいやすいということです。また、マスメディアも、そのような流行をつくろうとしています。

しかし、それでいいのでしょうか。教育界においても、「生きる力」「ゆとり」「総合的な学習」といくつものことばが飛び交っています。確かに「変化の時代」であり、それに対応していくことが求められていますが、ここで今一度立ち止まりたいのです。

これまで、私たちが大切に考えてきたことがそんなに間違っていたのでしょうか。こういう時代であるからこそ、何もかも「変わらなくちゃ」ではなく、どんな時代においても大切にしなければならない「不易」のもの・こととは何か、変えていかななくてはならない未来の「不易」となるもの・こととは何かを見据えていかななくてはなりません。

そういう思いもあり、本校では、子どもにとって「学びとは何か」を問い直すことにしました。まだまだ試行錯誤の段階にあります。確かに今の子どもと少し前までの子どもとは違いがあるようにも思います。現実を直視しなくてはなりません。

しかし、「不易」とはそれらをさらに越えたところにあるものと思います。これからも、地道に研究の歩を進めていきたいと考えています。

最後に、18世紀の啓蒙思想家として、また、新教育への道を開拓した教育思想家としてフランスで活躍したルソー（Rousseau, J.J.）が、彼の著書「エミール」で述べていることば（教育方法の原則）を結びのことばとしたいと思います。

1. 教育は自然的な過程であって、人為的なものではないこと。
2. 子どもの感覚を通しての直接経験を大事にすること。
3. 遊びや表現活動を重視すること。
4. 観念による道徳教育ではなく、模範による道徳教育。
5. 保健体育、生産教育の重視。
6. 地理は周辺環境地理から始めること。
7. ことばは実際の会話によって習得させること。
8. 歴史は教育計画のなかでは高学年で教え、判断は子どもに任せること。
9. 科学においては、知識よりも愛情を、論理的発見よりも心理的発見を重んじること。

研 究 同 人

金沢大学教育学部附属小学校

校 長 大 塚 巖

副 校 長 三 田 村 英 明

学 内 教 頭 吉 川 昌 博

国 語	石 川 誠	田 川 信 子	山 口 久 代
社 会 科	山 岸 郁 生	松 下 浩 一	笹 山 明 夫
算 数 科	才 鷹 一 博	松 中 基	古 川 雄 次 子
理 科	中 川 岳	釣 本 直 行	丹 後 京 子
生 活 科	興 井 綾 子	坂 井 文 代	
音 楽 科	乘 富 章 子	荒 木 泰 彦	中 川 晶 子
図画工作科	邑 井 吉 治	小 西 裕 一	
家 庭 科	浅 田 幸 子	牧 山 あ や	
体 育 科	安 田 一 志	小笠原 佳 子	長谷部 学
道 徳	宮 島 浩 典		
情 報 教 育	小 林 弘 二		
保 健 教 育	木 戸 壽 和 子		
環 境 領 域	興 井 綾 子 松 下 浩 一	安 田 一 志 小 林 弘 二	丹 後 京 子 松 中 基
人 間 領 域	木 戸 壽 和 子 小笠原 佳 子	田 川 信 子 笹 山 明 夫	山 口 久 代 浅 田 幸 子
文 化 領 域	小 西 裕 一 宮 島 浩 典	中 川 晶 子 石 川 誠	邑 井 吉 治 釣 本 直 行
英 語 活 動	長谷部 学 乘 富 章 子	才 鷹 一 博 荒 木 泰 彦	山 岸 郁 生

旧 同 人

澤 野 等	東 実	沢 野 景 子	坂 江 一 郎
森 田 誠	草 鹿 万 里	大 宮 裕 美 子	